

ほげい船原稿 平成 31 年 4 月

新年度を迎えて ー環境に適応できる病院にー

今年も恒例の人事異動の時期が過ぎて少し落ち着いてきたように思います。毎年のことですが 3 月には今まで高知病院を一緒に支えてくれた多くの職員が退職、転勤などで去り、4 月には他施設からの転勤者、新規の採用者など新メンバーを迎え新年度がスタートします。今年診療部では高知病院の発展に尽力していただいた統括診療部長の井上修志先生、臨床研究部長の篠原勉先生と病院幹部の二人が退職することになり病院が大きく変化する年度になりそうです。井上先生の後任として、整形外科医の福田昇司先生が統括診療部長に、総合診療部長には麻酔科医の鳥海信一先生が昇任し高知病院を推進していく新しい体制が整いました。

我が国において今年新しい時代を迎える記念すべき年となります。天皇陛下が 4 月 30 日に退位され、皇太子様が 5 月 1 日に即位されることはすでに決定されていたので新元号が何になるか大きな話題となっていました。4 月 1 日午前 11 時 41 分菅官房長官から新元号は「令和」と発表され、テレビも各局が列島各地の熱狂ぶりを紹介しました。つまり、2019 年は、4 月 30 日までが平成 31 年、5 月 1 日から令和元年になる予定で、2 つの元号に跨る年となります。「令和」の典拠は、『万葉集』の巻五、梅花（うめのはな）の歌三十二首の序文であり、確認される限りにおいて初めて漢籍ではなく日本の古典（国書）から選定されたとのこと。安倍晋三首相は「令和」が選定されたのは春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きくさかせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込め決定したと述べています。高知病院の職員すべてが、この首相談話のような「令和」の時代を迎えることができるように病院を進化させていかなければなりません。しかし、我が国は少子高齢化社会に突入し 2025 年問題が大きく取り上げられ、今後医療環境がよくなる要素はまったくないのが現状です。高知病院の機能を維持するためには、この厳しい環境の中で良質な医療を提供し地域に信頼される病院として存在し続けることが必要不可欠です。この課題を克服するためには職員全員で知恵を出し合い協力し、新しい姿勢で臨むことが重要です。工夫なく漫然と今まで行ってきたような日常を繰り返しては達成することはできません。

ダーウィンの「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」という名言がよく知られていますが、このことは病院にもあてはまることと思います。地域医療構想が進み、病院の役割が明確に分別されるようになり、高知病院もどのような病院を目指すか方向性を示さねばなりません。これからの我が国の医療のなかで生き残るためにはダーウィンの言葉ではないですが環境に適応できるように変化することが求められます。高知病院もどのような環境変化にも適応できる組織になりたいと思っています。

す。